

回収率	保護者 :	28/28名 (100%)
	職員 :	26/27名 (96.3%)

1 : まったくあてはまらない 2 : あまりあてはまらない 3 : ややあてはまる 4 : あてはまる

分野	()内の数字は保護者用アンケートの、[]内の数字は児童生徒用アンケートの番号	評価項目	評価	
教育活動	1 (1) [1]	職員アンケート	児童生徒が学習内容を様々な場面で活用できる教育実践に取り組んでいる。	3.5
		保護者アンケート	子どもは、学習したことや体験したことを生活の中で生かそうとしている。	3.4
		児童生徒アンケート	授業や学校生活の中で、これまでに学んだことを他の場所でも思い出して考えるようになった。(小) 授業や学校生活の中で、これまでに学んだことをもとに考えるようになった。(中)	3.2
		【今後の方策】○本年度の研究と絡めて授業改善シートを活用して、学部内で課題の抽出、改善、共通理解等を通して、授業展開の工夫を行ってきたことが効果を表してきたと思われる。生徒の評価が職員より低い点については、授業に参加できず学びの積み上げが不十分で、生徒自身に学習成果の実感があまりないことも考えられる。今後も継続して自己効力感や自己有用感を高められるように授業内容の工夫等を検討していく。 ○教育活動全体で学習の発表場面を設けたり体験的な学習させたりして、学習したことを生かしていると実感できるような声掛けや、経験を生かして活動する場面を増やす。		
	2 (2) [2]	職員アンケート	児童生徒が学びを深めることができる教育実践に取り組んでいる。	3.6
		保護者アンケート	子どもは、新しいことや新しい環境を受け入れるようになった。	3.7
		児童生徒アンケート	授業は楽しく、もっと知りたいと思う。(小) 授業中、興味や関心をもって学んでいる。(中)	3.1
	【今後の方策】○児童生徒の興味関心に応じた個別最適な学びを授業の中で取り入れることができるよう、研究での取り組みを続けていく。			
	3 (3) [3]	職員アンケート	児童生徒が各教科等の見方や考え方を働かせた活動ができる教育実践に取り組んでいる。	3.4
		保護者アンケート	子どもは、何事にも挑戦しようとしている。	3.4
		児童生徒アンケート	授業中、分からないことを先生や友達にたずねている。(小) 授業中、疑問に思うことを先生や他の生徒にたずねている。(中)	3.0
	【今後の方策】○児童生徒が他者と協力し合える雰囲気作りや交流できる環境を設定し協働的な学びの取り組みを研究で続けていく。			
	4 (4) (5) [4]	職員アンケート	個別の指導計画を活用し、児童生徒の実態や発達課題に応じた目標設定や授業を展開している。	3.7
		保護者アンケート	学校では、子どもの障害特性に応じて教材・教具や環境の工夫がされている。	3.6
			学校は、病気や障害についての専門的な知識や指導の技術を身につけている。	3.4
		児童生徒アンケート	授業中、先生の話は分かりやすい。(小中)	3.2
	【今後の方策】○職員間で、児童生徒の病気や特性に関する情報や、良い支援・指導方法について、情報交換する場を積極的に設けていく。			
	5 (6) [5]	職員アンケート	ICT機器を活用し、児童生徒のもてる力を引き出す教育実践に取り組んでいる。	3.7
		保護者アンケート	パソコンやタブレット等を活用した授業により、子どもの学習意欲が向上している。	3.5
		児童生徒アンケート	パソコンやタブレット、電子黒板などを使った授業は分かりやすい。(小中)	3.5
	【今後の方策】○次年度もICT機器を積極的に活用できるような情報発信を行い、分掌内で共有したりマニュアルを作成したりしていくことで教育実践の促進に努める。			
	6 (7) [6]	職員アンケート	読書活動を充実させるための取り組みを行っている。	3.4
		保護者アンケート	子どもは、本や新聞などへの興味の範囲が広がった。	2.8
		児童生徒アンケート	図書室やどんぐり号に行くことで本が好きになった。(小) 図書室やどんぐり号を利用しいろいろな本を読むようになった。(中)	2.6
【今後の方策】○諫早図書館と連携を密にして、リクエスト図書について検討していく。				

教育活動	7 (8) [7] [8]	職員アンケート	児童生徒の特性をよく理解し、児童生徒の人権を大切に指導している。	3.7	
		保護者アンケート	学校は、子どもの話をよく聞き、悩みに早期に気付こうとしている。	3.6	
		児童生徒アンケート	先生は、悩みを聞いたり、相談にのったりしてくれる。(小中)	3.3	
			先生は、困ったときに助けてくれる。(小中)	3.4	
	【今後の方策】○授業と並行して、悩み・不安の相談を職員間で共通理解し、生徒の精神的な面のサポートに努める。				
	8 (9) [9]	職員アンケート	いじめの実態把握や早期発見に努め、学校全体で組織的に対応している。	3.7	
		保護者アンケート	子どもは、学校が楽しそうだ。	3.7	
		児童生徒アンケート	学校はいじめや体罰などなく安心できる。(小中)	3.6	
		【今後の方策】○今後も過ごしやすい学校環境の整備に努める。			
	9 (10) [10]	職員アンケート	児童生徒が自分の成長に気付いたり、将来を見通したりすることができるキャリア教育に取り組んでいる。	3.5	
		保護者アンケート	子どもは、自分の成長に気付いたり、夢や将来のことを考えたり話したりするようになった。	3.3	
		児童生徒アンケート	できること(分かること)が増えた。(小中)	3.4	
		【今後の方策】○キャリアパスポートを使って、目標に対する達成及び課題に向き合う時間を十分に確保する。また、キャリアパスポートを持ち帰らせ、内容を保護者と共有する。			
	10 (11) [11]	職員アンケート	児童生徒や保護者に対して進路に関する情報提供を行っている。	3.5	
		保護者アンケート	学校は、進路に関する情報提供や一人一人に応じた進路指導をしている。	3.4	
児童生徒アンケート		将来の夢や希望がある。(小)	3.0		
		将来に向けた目標をもっている。(中)			
【今後の方策】○中学部保護者を対象としていた配付物を小学部保護者にも配付する。					
11 (12) [12]	職員アンケート	児童生徒が安全に対する意識が高まるよう指導している。	3.8		
	保護者アンケート	子どもは、地震や災害時の避難の仕方を知っている。	3.0		
	児童生徒アンケート	火事や地震が起きたとき、どうしたらよいかを知っている。(小中)	3.2		
	【今後の方策】○来年度に向けて教職員にアンケートを行い、防災学習の内容を見直し継続して取り組んでいく。また、防災学習で学んだことを避難訓練で生かしていけるようにする。				
主体的な学校づくり	12 (13) [13]	職員アンケート	児童生徒が積極的に発言するような関わりをしている。	3.8	
		保護者アンケート	子どもは、以前より積極的に話すようになった。	3.2	
		児童生徒アンケート	自分の考えや思ったことが言いやすい。(小中)	3.2	
		【今後の方策】○職員は生徒の発言を促す場の設定を行い、生徒が発言する実感をもっている。今後も継続していきたい。生徒同士においては「考えを言いづらい」と感じる場面があったと推測されるため、それぞれの考え、思いを尊重できるように自立活動や学級活動等で、SSTやストレスマネジメントの取組を通して、コミュニケーション力の向上を図る。 ○休み時間や特別活動等で仲間づくりをする場面を増やす。			
	13 (14) [14]	職員アンケート	学校生活の中で全ての児童生徒が活躍できるように場面を設定している。	3.8	
		保護者アンケート	子どもが、学校で自分が関わったことについてよく話すようになった。	3.3	
		児童生徒アンケート	自分の役割を頑張ったら、みんなが喜んだので嬉しかったことがある。(小中)	2.9	
	【今後の方策】○様々な行事等においては、生徒が活躍できる場を設定し取り組んできたが、4分の1の生徒は満足した実感をつかめていない。今後は、集会等での役割も含め、生徒の活躍できる場を継続して設定することと、活動後の称賛を意識して行ったり、学級での振り返り等で生徒同士称賛する機会を作ったりして、自己肯定感を高められるようにする。 ○在籍期間にもよるが、自分たちで企画して集会をしたり授業に招待する機会を設ける。				
	14 (15) [15]	職員アンケート	児童生徒が自ら行動するように意図的に働きかけている。	3.7	
		保護者アンケート	子どもは、以前より自分から行動するようになった。	3.1	
児童生徒アンケート		自分から行動することが楽しい。(小中)	3.0		
【今後の方策】○生徒によっては、転入した時期の違いで、捉え方が変わっていると考えられる。今後もセンターと連携しながら入院生活と学校生活が充実するように個々に応じた対応を行い、継続して意図的に働きかけていく。また、小学部児童については、自発的な動きを待ち、助言はするが支援が多くなりすぎないようにする。					

主体的な学校づくり	職員アンケート	児童生徒の個性を踏まえた、一人一人に応じた主体的な活動を促している。	3.8	
	保護者アンケート	子どもの個性や長所が伸びてきた。	3.3	
	児童生徒アンケート	周りに遠慮しないで、自分が思ったことをすることができる。(小中)	2.6	
	15 (16) [16]	【今後の方策】○保護者にとっては、十分とは言えないまでも、入院前の生活と比べると子どもの状態が改善していることを実感しているのではないかと思われる。その反面、生徒にとっては、環境の変化や友達との人間関係を構築していく中で、自信がもてない点があることも考えられる。上記問12同様、それぞれの考え、思いを尊重できるように自立活動や学級活動等で、SSTやストレスマネジメントの取組を通して、コミュニケーション力の向上を図る。 ○それぞれの得意なことを生かせる場面、褒められる(認められる)場面の設定をする。		
教育環境	職員アンケート	校舎内外の清掃・環境美化に努めている。	3.8	
	保護者アンケート	校舎内や校舎周辺は、除草や清掃がされており、花壇や掲示物も整っている。	3.6	
	児童生徒アンケート	学校の玄関や中庭、教室や廊下などはいつもきれいだ。(小中)	3.6	
	16 (17) [17]	【今後の方策】○毎学期実施している職員清掃を継続する。場所についてはその都度検討して計画を立てる。 ○玄関、窓口、階段、廊下、プレイルームについて、日々の清掃により美化を徹底していく。また、プレハブ校舎側の雑草についても、業者依頼もしくは職員作業により定期的に除草作業を実施する。 ○花壇に夏・秋用及び春用の花植えをして充実をはかるとともに、雑草の除去なども丁寧に行う。		
	職員アンケート	安全点検や危険箇所の補修を行い安全な環境作りを行っている。	3.7	
	保護者アンケート	学校は、事故防止のための安心・安全な施設・設備になっている。	3.6	
	児童生徒アンケート	教室やトイレは安全で使いやすい。(小) 教室やトイレなど学校の施設・設備は安全で使いやすい。(中)	3.2	
	17 (18) [18]	【今後の方策】 ○月1回の安全点検を継続し、その結果により判明した不具合等へ迅速に対処する。また、危険と判断される場合は、随時に立入禁止等の措置をおこない、応急処置及び予算要求を迅速に進める。 ○トイレは老朽化による環境の経年劣化があるが、安全に加え環境としても快適であることも望ましいため、予算の都合がつかぎり改善を図っていく。		
	開かれた学校	職員アンケート	児童生徒に関わる保護者をはじめとした関係者等に学校目標や学部目標を伝えている。	3.3
		保護者アンケート	学校目標や学部目標を知っている。	2.9
18 (19)		【今後の方策】○通信等を活用して、示していくとともに、学級経営の目標を学校、学部目標等に関連させて立てることで、具体的な指導につなげていく。 ○学校目標や学部目標について説明が掲載してある「東っ子新聞」等を転入してきた時期に保護者へ配付する。		
職員アンケート		ホームページを更新し、教育活動や学校生活の情報発信に適宜努めている。	3.7	
保護者アンケート		連絡帳や学級通信、ホームページなどで学校の様子が分かる。	3.5	
19 (20)		【今後の方策】○次年度も継続してホームページでの情報発信に努める。		
職員アンケート		児童生徒に関わる関係者等と必要な情報を共有し、連携しながら指導を行っている。	3.7	
保護者アンケート		学校に子どものことを相談しやすい。	3.6	
20 (21)		【今後の方策】○次年度も必要に応じて地域や他校と情報共有するなどして支援や指導の向上に努める。		
職員アンケート		地域の方や地域の学校と情報を共有しながら、交流学习を行っている。	3.5	
保護者アンケート		学校は、地域の方や地域の学校と連携して交流学习を行っている。	3.4	
21 (22)		【今後の方策】○職場体験やライオンズクラブとの交流等を通して、地域の方との関りを深めていきたい。また、生徒本人、保護者の希望に沿って、居住地校交流も計画的に進めていく。 ○少人数のため地域の方との交流を学習活動に取り入れ、協同的な学習を行う。		
職員アンケート		地域の未就学児に対する啓発や園や学校に対する教育支援を行っている。	3.5	
保護者アンケート				
22	【今後の方策】○諫早市特別支援教育連携協議会において、幼・保・子ども園コーディネーター向けの研修会を行っている。今後も、研修内容の充実を図っていく。			
職員アンケート	学校行事や育友会活動は、保護者が来校しやすく、参加しやすい設定にしている。	3.6		
保護者アンケート	学校行事や育友会活動は、時期や内容が工夫され、参加しやすい。	3.4		
23 (23)	【今後の方策】○学校行事について次年度も行事内容や日程など早めにお知らせするよう努める。			